



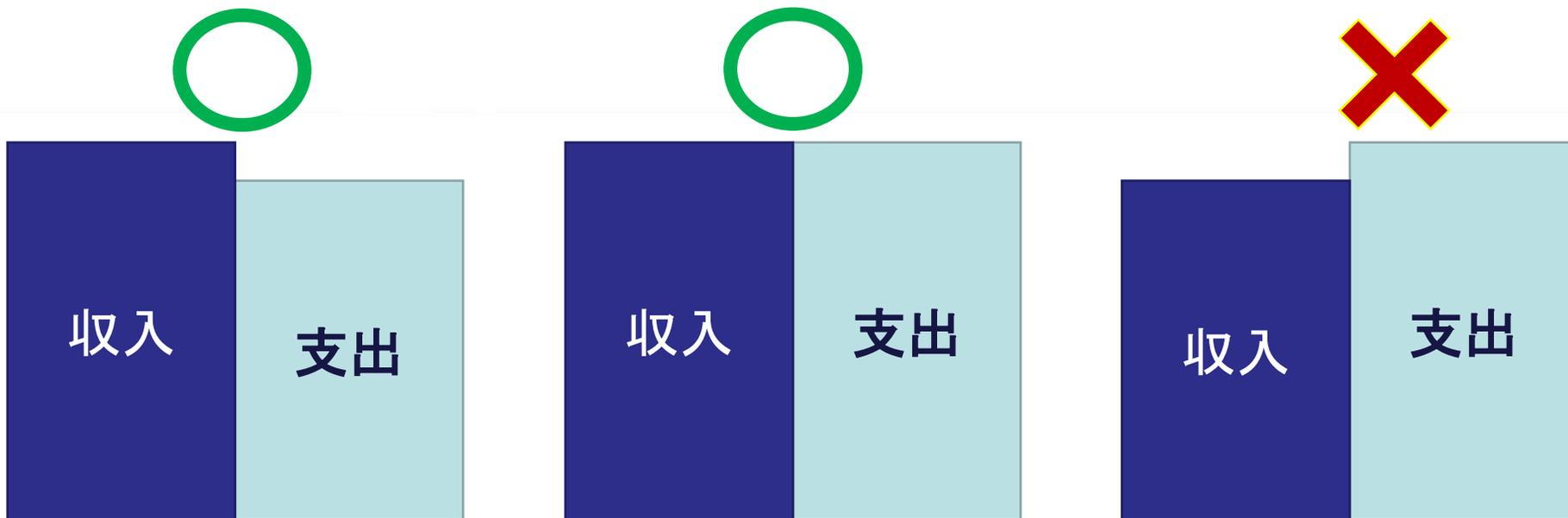
ファイナンシャルヘルスに関して 調査から読み取れること

オンラインフォーラム「シングルマザーと若者のファイナンシャル・ヘルスの実態」 2020年7月27日(月)

明治大学経営学部 小関隆志

ファイナンシャル・ヘルスの意味

- ファイナンシャル・ヘルスとは「個人のお金の収支が均衡していることや、多少の収支の上下に耐えられること、金融を理解し使いこなせるなど、『お金に対する健康度』」(調査報告書4ページ)
- 「個人のお金の収支が均衡している」とは？



「個人のお金の収支が均衡している」ためには？

- 収入だけではなく、**支出のコントロール**も必要
(⇒ 就労による収入増だけでは不十分)
- 収支を均衡させるための**知識やスキル、技術的環境**が必要
(⇒ 本人に備わっていない場合の支援も)
- **収支が均衡しない場合(多重債務や生活困窮など)**の対処も必要
- 収入が減少し、支出が収入を上回った場合、**貯蓄や借入などで赤字分を補填**する
(⇒ただし適切な金融サービスを選ぶ必要あり)



「金融を理解し使いこなせる」とは？

- 「理解」は**リテラシー(literacy)** ⇒知識の要素
- 「使いこなす」は**ケイパビリティ(capability)** ⇒能力・スキル、環境の要素
- **ケイパビリティ・アプローチ**(アマルティア・セン):ケイパビリティ(潜在能力)とは、ある人が価値を見出し選択できる「機能」の集合のことであり、その人に何ができるかという可能性を表している。
- 金融ケイパビリティは、実際に金融サービスを使いこなせる状態を指す。
- 個人的な力量形成だけでなく、社会環境の改善も含まれる。



ファイナンシャル・ヘルスと経済的自立

収入増の施策

経済的自立(主に就労支援)
自立困難⇒生活保護・給付

家計・金融施策

- P/LのうちP(収入)のみ

収支の均衡のこと(前述)

どれほど年収の高い人でも、今日の生活費が手元になければ、困窮する。
特に収入の限られている人ほど、入出金の管理は重要だが、自転車操業的になりがち。

- ➡ PとLのバランス
- ➡ キャッシュフローの管理
- ➡ B/S(ストック): 資産の管理・運用

急に収入が減ったり・途絶えたり、急な支出(病気など)があったりしても、何とかしのげるように、たくわえが必要。
収入が多い人でも、貯蓄が多いとは限らない。

家計・金融と経済・社会生活

家計に余裕がないので、社会生活が立ち行かなくなる

就職活動のための資金がなく、収入が得られない

家賃や公共料金、税金を払えず、給与を差し押さえ

家計・金融
の問題

相互
関連

経済・社会
生活の問題

激務のため精神を病み、仕事を続けられなくなった

離婚して収入が減少し、借金で生活をしのぐように

社会生活上のアクシデントにより、家計が成り立たなくなる

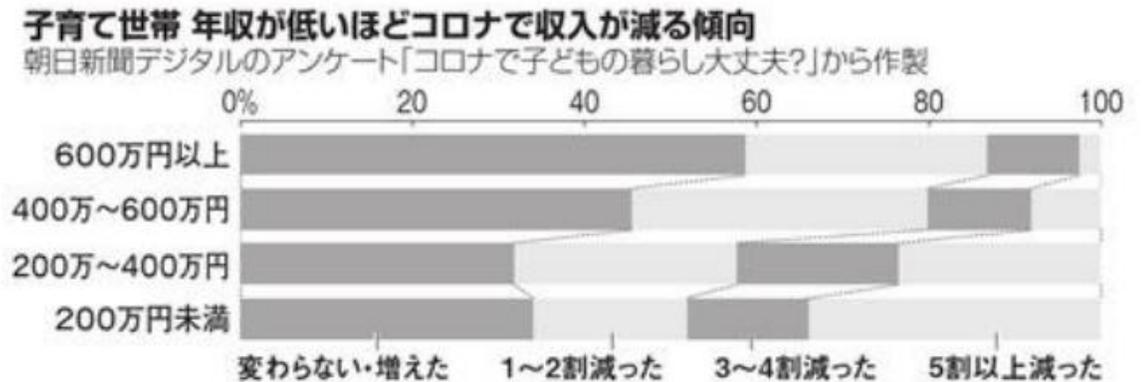
- 家計・金融の問題だけに注目しても、根本的解決につながらないことがある（精神疾患やギャンブル依存による家計破綻など）
- 家計・金融の問題に起因する社会的排除もある

本調査におけるファイナンシャル・ヘルス視点

- 「収入の多寡」ではなく、「収支が均衡しているか」を基準
- 特に「収入は支出より多い」(支出多グループ)に、ファイナンシャル・ヘルスの問題が顕著に表れている
 - 貯蓄があまりない ⇒ いざという時に生活が立ち行かなくなる
 - 借入金が多く、税金・家賃等の滞納経験も多い
 - 家計や子どもの教育費などで困りごとを抱え、「ゆとりがない」と感じている
- **収入より支出が多いのはなぜ？**
 - 養育する子が多い(シングルマザー)、奨学金の返済・住居費の負担(若者)
 - 非正規労働、非就業 ⇒ 年金・健康保険の保険料負担も大
 - 養育費なし(シングルマザー)

コロナ禍による、さらなる困窮

- 低所得のシングルマザーと若者は、もともと家計に余裕がなかった
 - シングルマザーの3割(30.3%)・若者の4割(44.2%)は、支出多グループ
 - シングルマザーの4分の1(24.1%)、若者の2割(19.2%)は、「貯蓄なし」
 - シングルマザーの半数(51.1%)、若者の6割(60%)は年収200万円未満
- コロナ禍による影響
 - 緊急事態宣言と休業要請
 - 政府による給付金の支給の遅れ、限定的な公的貸付
 - 家計に余裕のない人がコロナ禍でさらに困難の度を増したのではないか



所得少ないほど減収幅大

山野良一・沖縄大教授が結果分析

個の事後的救済だけにとどまらず、レジリエントな社会に

セーフティネットのない社会では、ちょっとしたつまづきが命取りに

家計に余裕なく、
資産もない

病気や失業、離
死別、災害など
のアクシデント

生活の破綻

不安定就労、低収入の人を
対象とした柔軟な資産形成、
リスク軽減を促す金融サー
ビスの提供

家計管理・金銭管理の支援、
家計・金融教育

早期に復帰するための資
金援助(給付金、貸付、保
険、債務の減免・利子補助
など)の充実

病気、障害、依存症などの
問題解決の支援

既に生活が破綻した人に
対しては債務整理、自己破
産、セーフティネット貸付に
よる生活再生、生活保護

ただ、こうした最終手段に
行き着く前の対策が重要